

ベナンの風便り

2009年7月号

みなさんお元気ですか？夏休み中には何をしていますか？部活や勉強で忙しいかもしれませんが、いろいろな経験をして有意義な休みにできるといいですね。

さて現在私が参加している青年海外協力隊では、活動任期2年間のうち20日以内で任国外を見て回るすることができます（もちろん私費ですよ）。先日、アフリカ中西部にあるガボン共和国を訪問してきたので、今回はその様子を報告したいと思います。

ガボン共和国



面積	267,667 平方キロメートル (日本の約3分の2)
人口	133万人
首都	リーブルビル (Libreville)
言語	仏語 (公用語)
宗教	キリスト教 (約3分の2) 伝統的宗教 (約3分の1)
主要産業	鉱業 (原油、マンガン) 農林業 (木材、ヤシ油)



内陸部への交通手段も船。川をさかのぼります。



国立公園のジャングルの中

ガボンは赤道上に位置し、気候は熱帯雨林気候。雨季はバケツをひっくり返したような雨が短時間で降るそうですが、訪問した時は乾季。ほとんど雨は降りませんでした。またとても暑いと思っていたのですが、うすい雲が空を覆っているからか朝夕はとても寒く、長そでなしに

は生活できないくらいでした。水は豊富で森林資源も豊かなことから、多くの人が農林・漁業分野の仕事をしているようです。交通手段は各地に飛行機が飛んでいるので、裕福な人たちはそれを利用しますが、一般市民はタクシーや船で時間をかけて移動します。

ガボン共和国が他のアフリカ諸国と違うところは森林資源のほかに、石油やマンガン、ウランといった地下資源にも恵まれているということ。そのためアフリカ諸国中、一人当たり国民所得で上位にあります。またその恵まれた資源を目的に多くの先進国が進出しており、首都であるリーブルビルの町並みは先進国並みでした。



海上にある石油の採掘現場



海路によって運搬される丸太

しかしながらこんなに豊富な資源を持つガボンですが、石油の精製技術や木材の加工技術が低いため、先進国に頼らざるを得ない状態。そのため産油国にも関わらず、ガソリンや石油製品の値段が高いという現象が起っています。ガボンにも現在協力隊員が医療、教育、水産などの分野に30名近く派遣されています。資源が少ない代わりに加工技術に優れている日本はこういう分野でも協力ができるのかも知れませんね。



上の写真はガボンで食べられているものです。左の写真はバトンマニョックといってキャッサバを棒状にしたもので、下に積み重ねられているのはアツタンガという実。真ん中の写真はティラピアで、右の写真は道端で売られているサルです。聞いた話だとガボン人はサルだけでなく、ワニやゾウも食べるみたいですよ！では良い夏休みを！

ブログ更新中

ベナンの風：<http://benin.seesaa.net/>